

水

土

里

ウォーク



# さみだれ大堰

～日本最大規模のゴム堰～

## の最上川の水を農地へ届ける

国土交通省が管理する「さみだれ大堰」は、日本最大規模のゴム堰で長さは約200mある。ゴム堰とは、ゴム製の袋に空気を入れて膨らませ、水をせき止めて水位を上昇させるものだ。

最上川は、豪雨のたびに立谷沢川から土砂が流れ込み、最上川との合流地点に土砂がたまりやすくなっていた。その土砂をそのままにしておくと、洪水時に下流の地区で水害が発生するおそれがあるため、定期的に撤去する必要がある。しかし、土砂を撤去すると川の底が下がり、それに伴って水位も下がることから、夏の濁水期には上流の取水施設（草薙頭首工・最上川取水口）で農業用水を確保できなくなるおそれがあるという矛盾を抱えていた。

さみだれ大堰の建設により、ゴム堰を起立させて水位を上げること

で、上流の取水施設を効率的に利用できるようになった。併せて、土砂撤去も可能となり、農業用水の確保と下流域の水害防止に大きく貢献している。

## の環境に配慮した堰と学びの場

さみだれ大堰は、魚の移動を妨げないよう、兩岸に魚道を設置し、自然環境に配慮している。右岸側には、魚などを観察できる「フィッシュギャラリー」を備え、一般に開放もされている。この施設は、周辺地域の児童・生徒だけでなく、県内各地から多くの人が訪れる。

管理者の酒田河川国道事務所の担当者は、「堰の建設において魚道を設け、環境にも配慮していることを理解してもらっている。」と語った。

**魚道とは？**  
魚は産卵場所や生育場所を求めて上下流へ移動するが、堰などの障害物があると移動できなくなる。そこで、魚の通り道を確保するために魚道を設置するもの。

# さみだれ大堰 周辺マップ



⑤ 堆積した土砂

④ さみだれ大堰

③ フィッシュギャラリー

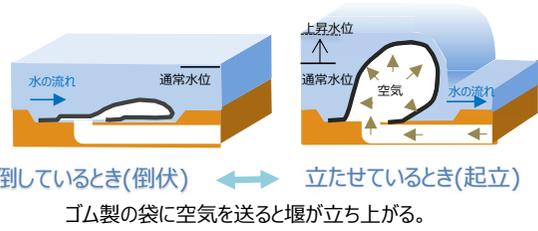
併設されているフィッシュギャラリーは、魚道(魚の通り道)の側壁に窓をつけ、最上川を泳ぐ魚の姿を観察することができます。

サクラマスやアユなど多くの魚を観察することができます。

② 最上川取水口

① 草薙頭首工

## のゴム堰のしくみ



### ワンポイント

急激な水位の変動を避けるため約3時間かけてゆっくりと操作(起立・倒伏)をする。実際に使用していたゴム堰がフィッシュギャラリーの駐車場に展示されている。完全に起立したときの高さは、2.7mになる。



ゴム堰の実物模型

お問い合わせ 酒田河川国道事務所 河川管理課 (国土交通省) TEL : 0234-27-3497